

ファザーリング全国フォーラム in 北海道

開催報告書

参加・聴講
無料
要申込

ファザーリング 全国フォーラム in 北海道

もっと自由に。新しい働き方、新しい子育てを北海道から。

2022年 11月 25日 金 時間 13:00~17:00	2022年 11月 26日 土 時間 10:30~17:30
場所 かでの2・7 札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル	場所 札幌エルプラザ 札幌市北区北8条西3丁目

■実施概要

◎日程・会場：2022年11月25日(金) かでの 2.7（札幌市中央区北2条西7丁目）
11月26日(土) 札幌エルプラザ（札幌市北区北8条西3丁目28）

◎参加対象：企業経営者・管理職、子育て中の方、プレパパママ、学生など

◎参加者数

- ・11月25日(金) 会場：55名（のべ89名） / オンライン：のべ106名
- ・11月26日(土) 会場：200名（のべ285名） / オンライン：のべ72名

◎参加費：無料（一部材料代が必要な分科会あり）

◎主催：①北海道

②ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員会

（特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパン、ファザーリング・ジャパン北海道、一般社団法人相互支援団体かえりん、パパ育休プロジェクト、こどもカンパニー株式会社、NPO法人E-LINK）

◎後援：内閣府、厚生労働省、財務省、日本労働組合総連合会(連合)、
にっぽん子ども・子育て応援団、札幌市

◎協力：札幌市男女共同参画センター

◎協賛：株式会社ピエトロ、しゅふきた、こどもカンパニー株式会社、パパしるべ、
株式会社恵和ビジネス、マルコメ株式会社（順不同）

大会スローガン

**もっと自由に。
新しい働き方、新しい子育てを北海道から。**

■プログラム

◎11月25日（金）＜主に企業の方向け＞

【基調講演Ⅰ・パネルディスカッション】13:15～サイボウズ青野氏＜主催：北海道＞

【分科会1】15:30～道内自治体の「育休」と「働き方改革」事例発表＜主催：FJ北海道＞

【分科会2】15:30～みんなで考えよう！日本と家庭のこれからのお金のはなし

＜主催：財務省＞

【分科会3】15:30～女性が生き生きと活躍できる職場とは？＜主催：FJマザーリングPJ＞

◎11月26日（土）＜主に一般の方向け＞

【分科会4】10:30～学生とはなす。働くこと。暮らすこと。子育てすること。

＜主催：実行委員会、札幌市＞

【分科会5】10:30～伝えてますか？帝王切開出産の準備&産後のサポート～パパ編～

＜主催：FJカイザーパパPJ＞

【分科会6】10:30～親子で作ろう！親子で遊ぼう！「木育」体験ひろば

＜主催：実行委員会＞

【分科会7】13:00～イマドキ部下や学生たちが求めるボス像とは～

「推しボスプロジェクト」に見る、これからの上司と部下・チームのカタチ

＜主催：FJイクボスPJ＞

【分科会8】13:00～「思春期こそ社会参画を」～子どもが諸問題から脱却するヒケツとは～

＜主催：FJコヂカラPJ＞

【分科会9】13:00～男性の育児休業のススメ～法改正のポイントと育休取得のメリットや

取組事例～＜主催：厚労省＞

【分科会10】14:30～パパ写真講座「家族の笑顔の増やし方～パパが写真をはじめたら～

＜主催：FJ＞

【分科会11】14:30～サステナパパPJ＜主催：FJサステナパパPJ＞

【分科会12】14:30～男性育休って実際どうなの？～経験者と語る座談会～

＜主催：パパ育休プロジェクト＞

【基調講演Ⅱ】16:00～高室典子先生＜主催：実行委員会＞

【SC1】10:30～第26回おさがりくるりん（おさがり交換会）

＜主催：一般社団法人相互支援団体 かえりん＞

【SC2】10:15～洋食屋さんのチーズハンバーグを親子で作ろう！トモシヨク料理教室

（協力：マルコメ）＜主催：FJトモシヨクPJ＞

【SC3】12:10～パパ's 絵本ライブ＜主催：パパ's 絵本プロジェクト＞

【SC4】14:30～いるとりどりダンスプロジェクト＜主催：キッカケノバ＞

開会式

【日時】2022年11月25日（金）13:00～13:10

【場所】かでの2・7かでのホール/オンライン

【主催団体名】ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員会、北海道

【登壇者】

安藤 哲也（ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員長）

鈴木 直道（北海道知事）

【実施内容】

大会主催者代表である安藤実行委員長による主催者挨拶、鈴木知事による挨拶、安藤実行委員長と鈴木知事の写真撮影（北海道イクボス共同宣言を背景として投影）、北海道イクボス共同宣言の説明を行った。



基調講演

【日時】2022年11月25日（金）13:15～14:00

【場所】かでの2・7かでのホール/オンライン

【主催団体名】ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員会、北海道

【登壇者】

青野 慶久（サイボウズ株式会社 代表取締役社長）

【実施内容】

サイボウズ(株)代表取締役社長である青野氏から「100人100通りの働き方で『男性の家庭進出』を」という題目で基調講演を行った。

主な内容としては以下のとおり。

- ・自社の離職率が上昇していることに危機感を覚え、社員の意見に耳を傾け（テレワークを可能にしたい、残業をしたくない等）、社内制度の改革を行っていった結果、離職率の低下につながった。
- ・自身が育児休業を取った経験（育児の大変さや、子育てを大事にしなければ市場が縮小していくことに気付いた）。
- ・育児休業を取りやすくするためには、チーム戦で仕事に当たる必要がある。そのためには、社員間の「オープンな情報共有」や、子育てを大切に作る風土を育てて行くこと、時には社員が他の社員の子ども面倒を見たり等が必要。



パネルディスカッション

【日時】2022年11月25日（金）14:05～15:05

【場所】かでの2・7かでのホール/オンライン

【主催団体名】ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員会、北海道

【登壇者】

安藤 哲也（ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員長）

青野 慶久（サイボウズ株式会社代表取締役社長）

小森 利通（株式会社ズコーシャ 総務部長）

石山 玲子（北海道労働局 雇用環境・均等部長）

中島 俊明（北海道経済部長）

太細 真弥（フリーアナウンサー）

【実施内容】

前半は「企業経営者から見た男性の育児休業取得」、後半は「取得経験者からみた男性の育児取得」をそれぞれテーマとし、パネルディスカッションを行った。

<前半の主な話題>

- ・小森部長から、自社の取組について説明（フレックスタイム勤務、在宅勤務制度の導入や、制度作りの段階から社内の意識啓発に力を入れたこと、さらにはこのような取組が社外での良いPRとなり、求職者が増加したことや、女性技術者の管理職登用にもつながっている。）
- ・石山部長からは国の支援制度を説明。
- ・中島部長からは道の企業向けの取組を説明

<後半の主な話題>

- ・石山部長からは国の今後の目標などについて説明。
- ・中島部長からは道の個人向けの取組を説明



分科会 1 道内自治体の「育休」と「働き方改革」事例発表トークセッション

【日時】2022年11月25日（金）15:30～17:00

【場所】かでの2・7 710会議室

【主催団体名】ファザーリング・ジャパン北海道

【登壇者】

手島 旭（芽室町町長（町長イクボス宣言：2019年10月））

大澤 知恵（苫小牧市 総務部行政監理室主査（副市長などイクボス宣言：2015年7月））

石川 海（苫小牧市 育休取得経験職員）

片山 学（千歳市総務部主幹（働き方改革推進担当）（市長イクボス宣言：2017年1月））

安藤 哲也（NPO 法人ファザーリング・ジャパン 代表理事）

太細 真弥（フリーアナウンサー／ファザーリング・ジャパン北海道メンバー）

【実施内容】

地方自治体は働き方改革とどう向き合っていくのか～イクボス宣言した自治体の現在と未来～

▼3つの自治体の働き方改革 取り組み事例発表

芽室町	町長自ら理想の地域と行政組織の関係図を作成。働き方改革の必要性・イクボス宣言の意味を細かく説明。町長・副町長の優先的有給取得日を設定→職員の時間外勤務減少／有給取得率増加。有給の過ごし方の助言「地域活動に参加するように」地域づくりを見据えた働き方改革意識 ★時代に合わせ変化するトップが理想、ボスの本気度が組織を変える
千歳市	ノー残業強化月間を設定し、毎週水曜日は全員定時退庁を促す。この日は担当者が庁内を見回り、所属長への指導ノー残業デーを設定するだけでなく、業務効率の改善を検討するところまで行動を促すために実施
苫小牧市	希望者に対し、メンター／メンティ制度の導入。9か月間ペア研修。理想の働き方とライフスタイルを実現するため。メンターは育児経験と2部署以上の異動経験がある30歳以上の職員→今後は男性の利用活発に

▼育休取得率向上への取り組みと男性育休取得者の声

苫小牧 石川さん 2児のパパ 30代前半	第一子の時は1か月取得「あつという間に感じた」→第二子の時に1年間取得。「健康こども部こども支援課」所属時ということもあり取得は歓迎ムードだった。パートナーは男性の育休取得に驚きの声。誰かが抜けても大丈夫な職場づくりの重要性を実感。 安藤さん「次は看護休暇の取得を。制度は使われないと無くなってしまう」
----------------------------	--

安藤代表理事からメッセージ「働き方改革は生き方改革。人生100年時代。働き方改革は個人が『自分の人生設計をどうしていくか?』を考えるための手段でしかない。職員の働き方改革に向き合う＝一人ひとりの生き方改革に向き合っていることだと意識してほしい」



分科会 2 みんなで考えよう！日本と家庭のこれからのお金のはなし

【日時】2022年11月25日（金）15：30～17：00

【場所】かでの2・7 730会議室

【主催団体名】財務省

【登壇者】

塚越 学（ファザーリング・ジャパン理事/公認会計士）

高祖 常子（ファザーリング・ジャパン理事/マザーリングプロジェクトリーダー）

星野 大輝（財務省大臣官房文書課課長補佐）

渡邊 裕美子（金融庁総合政策局総合政策課課長補佐）

【実施内容】

塚越氏司会の下、財務省及び金融庁の職員からの説明及びディスカッション等を実施。日本の財政状況や財政教育の取組、金融リテラシーの重要性や金融教育の取組等についての説明のほか、実際に北海道財務局が学校で財政教育プログラムを行った際のこどもたちの反応や写真を紹介したり、金融に関するクイズを交えたりしながら、和やかに行われた。

① FJと財務省のこれまでの取組みについて紹介（高祖氏）

FJのマザーリングプロジェクトリーダーとして、財務省と同プロジェクトとの連携した取組状況を紹介。

② 「日本の財政と、財政教育のいま」（星野氏）

財政とはなにか、日本の財政の現状とその課題等について、子どもたちに説明している資料を用いて紹介。日本の財政状況は、歳出が税収を上回り続け、その差を埋めるために国は借金をしており、その大きな要因として少子高齢化に伴う社会保障費の増があること、現在はこうした課題に対応するため、「全世代型」の社会保障制度への転換が図られていること等を説明。また、財政は私たち一人ひとりに密接に関係しており、学校現場で財務局が取り組んでいる「財政教育プログラム」を紹介し、実際の子供たちのリアクション等に触れながら、大人も財政について考えていく必要性等を説明した。

③ 「金融教育のいま」（渡邊氏）

本年4月より高校の家庭科において金融に関する内容の充実が図られた。最近よく耳にする「金融リテラシー」とはなにか、「金融教育」はなぜ必要なのか、そして今の子どもたちはどのような金融教育を受けているのか、をメインテーマに講演を行った。大人も知っておきたいお金の使い方や資産形成についても解説したほか、家庭で子どもと「お金」について話す時に使える様々なコンテンツについても紹介を行った。

④ ディスカッション&質疑応答



分科会3 女性が生き生きと活躍できる職場とは？

【日時】2022年11月25日（金）15：30～17：00

【場所】かでの2・7 1070会議室

【主催団体名】FJ マザーリング・プロジェクト

【登壇者】

岩淵 香織（株式会社北海道アルバイト情報社 営業部事業部長）

今 啓亮（マルゴト株式会社 代表取締役）

星野 恵（一般社団法人相互支援団体かえりん 代表理事）

林田 香織（ワンダライフLLP 代表/NPO 法人ファザーリング・ジャパン理事）

高祖 常子（キャリアコンサルタント/NPO 法人ファザーリング・ジャパン理事）



【実施内容】

プログラム

- ・マザーリングプロジェクト紹介
- ・岩淵氏より、2児を育てながら、時短勤務も経験しながら管理職になった体験談。
- ・林田氏より、「女性」も多様になってきていること、育児期社員においてはパパとママの差がなくなってきたことなど、共働き率、育児期女性の有職者率、夫婦の話し合いとキャリアの捉え方などのデータを交えて紹介。
- ・高祖氏より、令和夫婦の基本は共働き、令和ママは男性育休取得に大賛成などのデータ紹介や、家事育児の男女平等と出生率との関係、出産後の女性の所得は世界的に見ても低いという情報提供を行い、働く女性の自己決定について問題提起。

パネルディスカッション

- ・今啓亮氏より、8割が女性従業員である会社の代表として、フルリモートで働く会社を運営することについて。星野恵氏より、4児の母として育児環境を変えたいと取り組んできたことなどを紹介いただく。
- ・その後、登壇者5人でパネルディスカッション（進行・高祖氏）を行った。主なテーマは、「女性が働くときの壁は？」「女性が働きやすい職場とは」「女性管理職を増やすには」「誰もが働きやすい職場環境」「企業が目指すべき方向とは？」など。
- ・岩淵氏の、子育て期は管理職から降りて働く選択をしたこと、さらにその後管理職への復帰の経験を通して、子育て期の働き方と働き方の選択について考えた。さらに、営業は個人目標を立てず、チームで目標を追求していく形を実践しているという話には、働きやすさと目標追及の両面からの利点があることを教えていただく。
- ・今氏は、自身の子どもが生まれるタイミングで起業し、自分の働きやすさを追求したところ、フルリモートになった経験談を紹介。さらに仕事拡大にあたって求人すると、女性従業員が8割になったことなどを伺い、男性自身の働きやすい職場作りは、女性も働きやすい職場になることを実践を通して示していただいた。
- ・星野氏は、前職が営業で、仕事復帰後の個人目標の達成などが難しいと判断。その後、起業し、子育て環境の改善などをベースに様々な事業に取り組んでいることを紹介いただき、ライフチェンジについて考えるヒントをいただいた。



分科会 4 学生とはなす。働くこと。暮らすこと。子育てすること。

【日時】2022年11月26日（土） 10:30~12:00

【場所】札幌エルプラザ 4F 大研修室/オンライン（ZOOM）

【主催団体名】ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行員会、札幌市

【進行役】丸山宏昌（ファザーリング・ジャパン北海道共同代表）

【実施内容】

実施概要

今回は、オンライン、オフラインの同時での開催となり、同時進行で同じテーマについて議論を行った。学生と大人が交流するというテーマを掲げ、キャリアのことや家庭での生活のことを参加者の各目線から議論するワークショップ形式での分科会となった。またこの分科会は、札幌市がダイバーシティな都市を目指していくプロジェクト『#SAPPORODIVERCITYPROJECT』の一環で開催された。参加者は地元札幌の人のみならず、三重県や山形県など、全国各地からの参加があった。

主な内容

「ぶっちゃけどんな子供でしたか？」や「親に言ってしまって後悔していること、嬉しかったこと」などの家庭での会話を中心としたテーマで、グループに分かれての意見交流を行った。その内容を模造紙でまとめ、ワールドカフェ方式での意見交流を行った。

各グループ個性のある意見が活発に出されており、多種多様なグループワークとなった。グループワークの中では、昔の親子関係と今の親子関係が異なっていることが多くのグループで話し合われており、学生、親世代ともにそのことに対して驚く場面が印象的だった。

【当日の様子】



分科会 5 伝えてますか？帝王切開出産の準備&産後のサポート～パパ編～

【日時】2022年11月26日(土) 10:30～12:00

【場所】札幌エルプラザ 中研修室

【主催団体名】FJ カイザーパパプロジェクト

【登壇者】

一之瀬幸生 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン カイザーパパプロジェクト リーダー)

棒田明子 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン 理事)

関根進 (ファザーリング・ジャパン 北海道)

【実施内容】

どの家庭にも可能性がある帝王切開出産について知り、家族が笑顔で出産と産後を過ごすために、パパたちへ帝王切開出産についてどう伝えていくか考える。

～プログラム～

1. 北海道の産科医療の現状
2. 北海道における「両親教室」の現状
3. 北海道における育休取得状況について
4. カイザーパパプロジェクトについて
5. パパのためのリーフレット
6. 私たちにできることは？

参加者：自治体職員、助産師など

特別参加：横手 直美 (中部大学 生命健康科学部 准教授・助産師)

細田 恭子 (帝王切開カウンセラー)

前半は、カイザーパパプロジェクトメンバーよりプログラム1～5を伝えた後、後半は、パパに帝王切開出産について知ってもらうために私たちにできることについて参加者全員でディスカッションを行った結果、様々なアイデアが出た。

～アイデアの例～

○帝王切開出産の周知

- ・両親教室を担当する保健師等の職員向けの研修に盛り込む
- ・両親教室で伝える (義務化)
- ・企業の研修 (育児休業、ハラスメント等) に盛り込む
- ・学校教育 (保健科目等) に盛り込む
- ・義務化に向けて、課題認識してもらう (メディアや有名人、SNS 炎上など注目を浴びる仕掛け)
- ・リーフレットの活用

○リーフレットの活用

- ・自治体が母子手帳を配布する際に併せて配布
- ・両親教室でリーフレットを配布
- ・妊婦向けの資料に入れるなど義務化

また、帝王切開出産や産後はどのような様子なの？についても意見交換が進み、横手氏、細田氏の助言をいただきながら理解を深めた。



今後のアクションとして、参加者からの宣言

- ・保健師向け研修でリーフレットを使って伝えていく
- ・企業向け男性育休研修にてリーフレットを紹介する
- ・周囲に伝えていく

今回の参加者は帝王切開出産経験者（本人又はパートナー）ではなかったにも関わらず、ワークショップ終了時には、「出産を控える全員（本人及びパートナーなど家族）が帝王切開出産について知っておく必要性を感じた」、「パパたちに知ってもらえるよう周知していきたい」などの感想があった。帝王切開出産について具体的な情報を知る機会をつくることで理解が進んでいくと感じた。

今後、NPO法人ファザーリング・ジャパンホームページにて、「パパのためのリーフレット」ダウンロードページを作成（予定）し、他人事ではない帝王切開出産を周知していく。



分科会 6 親子で作ろう！親子で遊ぼう！「木育」体験ひろば

【日時】 2022年11月26日（土）10:30~12:00

【場所】 札幌エルプラザ 工芸室

【主催団体名】 ファザリング全国フォーラム in 北海道実行委員会

【登壇者】

齊藤 文美（ようてい木育倶楽部部長）

齊藤 香里（ようてい木育倶楽部）

【実施内容】

親子で木工体験による「遊び」を通じ、親子のコミュニケーションを図るとともに、身近な森林、森のこと、木のことを学んだ。

参加者：親子1組、パパ3名

1 木のこと、森のことを学ぼう

木の葉から木のことや森のことを学んだ。

2 葉っぱのパズルづくり

ようてい木育倶楽部が開発・制作した「葉っぱのパズル」を親子で完成させた。

初めての糸鋸に最初はみんな苦戦していましたが、最後にはうまく切り抜くことができた。

会場のスタッフも参加し、それぞれが好みの色を塗り、「葉っぱのパズル」を作り上げた。

通常のパズルは、はめ込み方法が一通りだが、このパズルは何通りもある（数えきれない？）。親子で苦労しながらチャレンジ！ なかなか完成できないパズルに、子どもよりもパパがだんだん夢中になった。

結果的には、時間内では完成することができず、家に帰ってからの楽しみとなった。



分科会7 イマドキ部下や学生たちが求めるボス像とは～

「押しボスプロジェクト」に見る、これからの上司と部下・チームのカタチ

【日時】2022年11月26日(土) 13:00～14:15

【場所】札幌エルプラザ 大研修室

【主催団体名】FJイクボスプロジェクト、FJ押しボスプロジェクト

【登壇者】

河端 良輔 (会社員(経理職、非管理職))

関根 進 (地方公務員 (北海道)。FJ賛助会員)

林田 香織 (ワンダライフLLP 代表/NPO法人ファザーリング・ジャパン理事)

塚越 学 (NPO法人ファザーリング・ジャパン理事、押しボスプロジェクト推進リーダー
イクボスプロジェクト・コアメンバー)

【実施内容】

1. 押しボスプロジェクトの概要
2. 押しボスとイクボスの違い



3. 押しボス全国アンケート結果の公表と分析

■実施期間：2022年9月17日～10月31日

■アンケート方式：インターネット (Google フォーム利用)

■対象：大学生から社会人まで男女問わず働く全ての人 【期間内回答数】：182

アンケート結果



推しボスの条件 (世代分析)

総合順位

- リーダーシップ重視
- バックアップ重視
- 人柄重視

①考えが柔軟	16.7%
②仕事サポート/バックアップしてくれる	16.7%
③チームを引っばってってくれる	10.0%
④部下・後輩にやさしい	9.7%
⑤情に厚い・親身になってくれる	7.2%
⑥頼りがきれる	6.8%
⑦コミュニケーション能力が高い	6.8%
⑧ポジティブシンキング	6.3%
⑨責任感が強い	4.7%
⑩部下・後輩を鼓舞してくれる	4.7%

30代以下

①部下・後輩にやさしい	14.4%
②仕事サポート/バックアップしてくれる	11.7%
③情に厚い・親身になってくれる	8.2%
④考えが柔軟	8.2%
⑤チームを引っばってってくれる	8.2%
⑥頼りがきれる	6.0%
⑦ポジティブシンキング	6.0%
⑧コミュニケーション能力が高い	5.0%
⑨メンタルケアが手厚い	4.0%
⑩部下・後輩を鼓舞してくれる	4.0%

40代以上

①考えが柔軟	12.2%
②チームを引っばってってくれる	12.2%
③仕事サポート/バックアップしてくれる	10.7%
④コミュニケーション能力が高い	7.5%
⑤頼りがきれる	7.1%
⑥責任感が強い	6.6%
⑦公平性が高い	6.4%
⑧ポジティブシンキング	5.4%
⑨部下・後輩を鼓舞してくれる	5.2%
⑩情に厚い・親身になってくれる	4.2%

上位3つを比較すると、30代以下は「人柄重視」2つと「バックアップ重視」1つ、40代以上は「バックアップ重視」2つと「リーダーシップ重視」1つと明らかな違いが出た。また40代以上の上位10個のうち半数が「リーダーシップ重視」30代以下4個が「人柄重視」となっていて全体像にもギャップが見られる。そんな中でも30代以下で「情に厚い・親身になってくれる」「チームを引っばってってくれる」が上位に入っていることからボスに頼りたいという姿勢も見られる。

さらなる年代分析により、10代と20代の一位は「部下・後輩にやさしい」が顕著であった。

4. 推しボスアワードからみるこれからの上司と部下、チームの在り方とは

No.1 小西啓幸さん 「アドバイザーも仕事も完璧なせもちゃん （アイトーでも仕事も完璧なせもちゃん 最優秀の上司で賞） 学生審査員「一位」 大人審査員「二位」
No.2 Gidhaeth Akhmadさん 「ワーク・ワーク タイプ・チーム」で賞 大人審査員「一位」
No.3 渡辺雄太さん 「モチベーションを 高めてくれるで賞」
No.4 中野裕貴さん 「一緒に働けば、 困らねば仕事も楽々で賞」 大人審査員「二位」
No.5 石丸海渡さん 「絶対的信頼をおける上司で賞」 学生審査員「二位」
No.6 岡久壽博さん 「謙と言葉でしっかり引っ張るで賞」
No.7 一平剛志さん 「チームで一緒に会社を変えたいで賞」
No.8 佐藤健明さん 「厳し「ババ」ボス」で賞 学生審査員「二位」



登壇者の関根氏と川端氏がお勧めの「推しボスアワード受賞者」の推しボスプレゼン動画を改めて見直すとともに、受賞企業のコメント、学生審査員のアンケート結果、学生審査員を輩出した教育機関等からのコメントをもとに、これからの上司と部下、チームの在り方を議論した。

分科会 8 思春期こそ社会参画を ～子どもが諸問題から脱却するヒケツとは～

【場所】札幌エルプラザ 中研修室

【主催団体名】FJ コチカラプロジェクト

【登壇者】

川島 高之 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン 理事)

八坂 貴宏 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン コチカラ PJ リーダー)

谷内 政昭 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン北海道)

蓑田 雅 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン会員) ※オンライン

馬場 義之 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン九州 理事) ※オンライン

【実施内容】

◎冒頭オリンテーション

- ・趣旨説明と登壇者等の紹介

◎FJ 川島氏 “我が子のチカラ” を、信じよう”

- ・我が子から逃げずに向き合う／社会のウィンドウになる／笑っている親でいる
そして、我が子のチカラを信じる
- ・我が子のチカラを信じたら好きな事、得意な事、役立つ事の機会を、出来るだけ与える
- ・あとは、我が子が「自己決定」するのを、待つだけ

◎思春期のリアル

- ・新 FJ スクール思春期講座の内容紹介
- ・思春期講座の講師、蓑田氏とのオンライン対談
- ・受講者の声アンケート結果&実際の声 (オンライン：馬場氏)

◎PJ リーダー八坂氏 “パパはメンター”

- ・子どものチカラを最大限引き出すための関わり方 (見本・信頼・支援) について、対極 (権限・要求・強制) との違いを、具体的事例を踏まえて講義した。

◎会場内トーク

- ・これまでの内容を含めて、来場者の方々と思春期の子どもを持つパパとして、どのように関わっていけば良いかをディスカッションした。

概ね「信じて待つ」「パパ自身が人生を楽しむ」など、子どもをどうさせるかといったコントローラ的関わりではなく、パパ自身のあり方に関わるポジティブな意見が多数出た。



分科会 9 男性の育児休業のススメ～法改正のポイントと育休取得のメリットや取組事例～

【日時】2022年11月26日(土) 13:00～14:15

【場所】札幌エルプラザ 環境研修室

【主催団体名】厚生労働省(委託事業「男性の育児休業取得促進事業」)

【登壇者】

本間 あづみ(社会保険労務士法人 MIKATA 代表社員、特定社会保険労務士、IT コーディネーター、札幌中小企業支援センター「ひとサポ(人材確保・テレワーク導入相談窓口)」アドバイザー)

【実施内容】

●13:00～13:45 本間講師から資料に沿って説明

(説明内容)

- ・男性の育児休業取得の現状と課題
- ・育児休業制度の概要
- ・育児休業取得のメリット
- ・育児休業取得者の体験談・企業の取組事例
- ・育児・介護休業法における不利益取扱いの禁止、ハラスメント防止措置について
- ・育児休業についてのQ&A

●13:45～14:15 グループワーク

(内容)

- ・出席者を4名2グループに分けてグループワークを実施
- ・20分間をグループ討議に充て、10分間をグループ代表者からの発表とした
- ・テーマは、「育休を取りやすい職場とは?～職場環境について考える～」
- ・各グループとも活発な討議を行っていた。グループからの発表としては、「マネージャーは普段から従業員とよくコミュニケーションを取っておくことが大事」、「仕事を属人化させないために普段から誰が休んでも回る職場づくりをしていくべき」などの意見が上がっていた。



分科会 10 パパ写真講座「家族の笑顔の増やし方～パパが写真をはじめたら～」

【日時】 11月26日(土) 14:30～15:45

【場所】 札幌エルプラザ 大研修室

【主催団体名】 ファザーリング・ジャパン

【登壇者】 加藤雄一（笑顔写真家えがお先生）

【実施内容】

本分科会は育児休業を取得する人から、主に乳幼児期・児童期のお子さんをもつ父親に向けて、写真を使った家族とのコミュニケーション方法を学んだ。

（プログラム）

1. パパ写真が家族を笑顔に！？
2. パパ写真の極意
3. 妻が喜ぶ写真って何？
4. スマホカメラの裏ワザ機能
5. 写真でできる！パパたちの関係性

■内容①父親が写真をはじめることの魅力

「パパ写真」とは家族を見守る視点で撮られた写真のこと。パパが写真をはじめると、家庭だけではなく、近所の人たちや地域の笑顔を増やしていける。参加者の方に、「普段、子どもや家族の写真は撮りますか？」と質問をして、会場全体でリアルなパパの姿を把握し、どのようなコミュニケーションを通して、家族の写真を撮ってあげばいいのかを考えた。



■内容②母親の笑顔のためにできること

妻が喜ぶ写真について考えていき、男性の視点と女性の視点のちがいを理解し、妻の笑顔のために写真を撮ることの重要性を伝えた。クイズ形式で進行したことで、参加者全員が発話をし、父親同士で物事を考えてもらうきっかけにもなった。



■内容③スマートフォンのカメラを使ったコミュニケーション

各家庭ですぐに実践できるコミュニケーション技法の習得を目的に、父親がスマートフォンでできる撮影テクニックを実技とワークショップを交えて行った。参加者も目の前に子どもがいることを仮定して、実際に手を動かして、学んだ。



■内容④写真を使った父親支援の方法

実例を元に、様々な自治体で実施している父親支援のイベントや方法をレクチャーした。実際に父親同士で作成しているフォトブック等も手に取ってもらい、写真のある子育ての魅力や父親支援の可能性を考えていった。



分科会 11 サステナパパPJ

【日時】2022年11月26日(土) 14:30~15:45

【場所】札幌エルプラザ4階 中研修室

【主催団体名】FJ サステナパパPJ

【登壇者】

安藤 哲也 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン ファウンダー・代表)

事例1: パパの日「全国」一斉清掃活動(三重県)

川添 賢一 (子育て支援団体「ミエメン」代表)

事例2: イキメン実践プロジェクト(関西、大阪)

浅山 貴宏 (ファザーリング・ジャパン関西 理事)

事例3: NPO 法人みよしの自然環境を守る会(愛知県みよし市)

河合 利彦 (NPO 法人みよしの自然環境を守る会 役員)

【実施内容】

はじめにサステナパパプロジェクトの安藤代表から挨拶があり、子育ての次のステージにある地域や社会に目を向けソーシャルアクションが、徐々に拡大していることを話しました。そのうえで、ロールモデルとして各地域で取り組まれている3つの活動をしているパパに声をかけた。

①事例1 パパの日「全国」一斉清掃活動

- ・ミエメンは、パパ達が自分達の特技を活かして、ななめの関係をつくるイベントを沢山開催してきた。
- ・これまでの取組の一環として、全国のパパサークルやパパに呼びかけて、「全国パパ清掃活動デー」を実施(2022年6月12日8:00スタート)
- ・全国どこでも誰でもできる「ごみ拾い」が一番手軽にできる地域活動である。
- ・主な内容は、同じ日、同じ時間から全国のパパがそれぞれの地域で清掃活動を行うだけであり、家の周りを一人、子どもと一緒に公園や、地域のパパ活動として大人数で地域の海岸の清掃などを取り組まれた。
- ・Zoomでつないでのスタートセレモニーや、終了後、任意のパパで振り返り会を行う。
- ・参加することを通じて、パパに地域活動に関心を持つきっかけを作り、サステナブルな活動に関心を持つパパを増やし、パパの交流のきっかけにもつなげる。



②事例2: イキメン実践プロジェクト

- ・日本昔ばなし風に、イキメン実践プロジェクトができた経過を説明することで、本プロジェクト目的などを説明
- ・審議会を「地域のアツい住民と繋がれる場」として捉え、地域課題に目覚めた「イキメンパパ」が、「審議会の『市民公募枠』を利用して審議会に参画」することで、「地域貢献」と、「自身の成長」の機会を得て、



そして実践により、「より良い地域を次世代に残す」（サステナブル）ことを目的とした、NPO 法人ファザーリング・ジャパン関西の全国プロジェクトであることをアツく語られた。

- ・会場で、このプロジェクトで作成した審議委員の入門編「リーフレット」が完成し配付された

③事例 3：みよしの自然環境を守る会

- ・自然豊かなみよし市において、自然を守ることを通して、世代に関係なく楽しみながら様々な活動をしている。
- ・田んぼでの、お米の栽培をしている。田植え、草取り、稲刈り、収穫祭などを通して、団塊世代や、現役世代、大学生や子どもたちが徐々に増えていった。
- ・また、自然が豊かなので、生き物観察、夜の観察会、写真展などはとても親子、家族に人気があり大勢に家族が参加し、様々な繋がりのおかげにもなっている。
- ・収穫祭では栽培したお米を使って、昔ながらの機械を使ったポン菓子を実施し、大人気である。団塊の世代の力が発揮できることや、それに興味を持った現役世代、子どもたちが力を合わせて活動している状況が話された。
- ・多世代にわたる活動になり、今後も、ビオトープ整備などを通じて地域活性化をしていく。



④登壇者でのパネルディスカッション

- ・こういった地域活動を通して分かることは、地域のことを「考える場」がなく、事例にあったような現役世代がその場を提供することが、今後も地域で繋がりをもつ重要な事であることが話された。
- ・現役世代が地域で活動するためには、仕事だけではなく、兼業や多様な働き方の変革がとても求められているし、制度が拡充することで徐々にこういった事例が出てきていると感じていることが話された。
- ・行政側も地域で率先して取り組まれることについては、とても応援してくれる。
- ・また、地域においてキーパーソンになる人が、数人出るだけで大きく変わる。FJ メンバーはとても意識が高いので、サステナパパ、現役世代がもっと全国のあらゆる地域で増えていけば、大きく変わっていくのではないかといったことが話された。



分科会 12 男性育休って実際どうなの？～経験者と語る座談会～

【日時】2022年11月26日（土）14：30～15：45

【場所】札幌エルプラザ 2階環境研修室

【主催団体名】パパ育休プロジェクト

【登壇者】

- ・会社員男性、36歳、2020年12月から2か月育休取得（第2子）
- ・地方公務員男性、34歳、2022年4月から4か月育休取得（第1子）
- ・パパ育休プロジェクト 藤村侯仁（ファシリテーター）

【実施内容】

ファシリテーターの進行で、登壇者2名を中心に会場参加者を巻き込みながらフリートークセッションを行った。

まず、登壇者2名の自己紹介の後、

- ① 育休取得前の状況として、
 - ・子どもが生まれる前の働き方、家庭生活や夫婦の役割は？
 - ・なぜ育休を取ろうと思ったのか？
 - ・育休取得を会社に伝える時に、悩んだことや障壁になったことは？
 - ・会社にはどのタイミングでどのように伝えたのか？
 - ・育休に入る前に、仕事面でやったことや工夫したことは？
- ② 育休期間中のことについて、
 - ・育休中はどのように過ごしたのか？
 - ・当初、思い描いていたように育休期間を過ごせたか？
- ③ 職場復帰後の働き方や家庭生活について、
 - ・復帰後の勤務先からの評価や待遇は納得のいくものだったか？
 - ・復帰後から現在の働き方、または家庭生活や夫婦の役割の変化は？

等について話を聞き、会場参加者も交えて意見交換した。

中には、育休中に妻から怒られたことや、育休取得の希望を職場に出した時に失敗したことなど、この場でしか聞けない実体験を共有することができ、男性の育休取得に関して新たな発見や学びが得られる場となった。



Special Content1 第26回札幌おさがりくるりん（おさがり交換会）

【日時】2022年11月26日（土）10:30～15:00

【場所】札幌エルプラザ 1F 情報センター内

【主催団体名】ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員会、北海道、
一般社団法人相互支援団体かえりん

【実施内容】

子どもの不要になった洋服を、参加者間で交換するイベント。

物々交換ではなく、サイズアウトしてしまったけれどまだ使える子供服を先に寄付してもらったものを（お下がり回収を行っている）当団体が一時的に保管し、イベント開催時に持ち出し会場に設置、イベントに参加した方々が好きなものを自由に袋一杯に詰めて持ち帰るという形式で運営している。本イベントでは、妊婦～10歳くらいの子供を持つ親子49世帯130名が参加した。



Special Content2 洋食屋さんのチーズハンバーグを親子で作ろう！トモシヨク料理教室 協力：マルコメ

【日時】2022年11月26日（土）10：15～13：00

【場所】札幌エルプラザ 2F 食材研究室

【主催団体名】NPO 法人ファザーリング・ジャパン トモシヨク Project

【登壇者】

滝村雅晴（パパ料理研究家／株式会社ビストロパパ代表取締役／トモシヨク Project リーダー）

【実施内容】

親子で作って、みんなでトモシヨク（共食）！失敗しない塩麴で作るチーズハンバーグのヒケツを、パパ料理研究家の滝村雅晴が伝授。参加者と楽しく作って美味しくトモシヨクした。塩麴で作るハンバーグは、ふわふわジューシーで絶品。何度も作りたくなるハンバーグを作ってもらった。子供達も自分で作ったハンバーグに大喜びだった。みんなが料理で自由になれる社会、トモシヨクを楽しめる世の中をトモシヨク Project はこれからも創っていきたいと考えている。

メニュー：

生塩麴で作るチーズハンバーグ／オーロラソースかけサラダの1プレート／鍋で炊くごはんの料理実演

*参加者に、マルコメ「プラス糀 生塩糀」をプレゼント。協力：マルコメ株式会社





Special Content3 パパ's 絵本ライブ

【日時】2022年11月26日(土) 12:10~13:30

【場所】札幌エルプラザ 1F 情報センター内

【主催団体名】パパ's 絵本プロジェクト

【登壇者】

西村 直人 (音楽家・音楽療法士)

安藤 哲也 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン 代表理事)

伊藤 新 (ファザーリング・ジャパン北海道 共同代表)

【実施内容】

絵本ライブとは、絵本に歌をつけた音楽ライブ、お笑いライブ、絵本の読み聞かせなどの要素を組み合わせたライブである。

音源にあわせて、ウクレレ、エレキギター、カホン、そして3人のハーモニーにより、子どもから大人まで誰もが楽しめるライブを実施。会場では、子どもはもちろん、保護者や会場の職員も音楽に合わせて踊り出すなど、参加者みんなが一緒になって盛り上げてくれた。



Special Content4 いるとりどりダンスプロジェクト

【日時】2022年11月26日(土) 14:30~15:45

【場所】札幌エルプラザ 1F 情報センター内

【主催団体名】キッカケノバ

【登壇者】

青木 美紀 (作業療法士)

佐々木 あゆみ (ダンスインストラクター)

【実施内容】

「手話ダンス」と「感覚遊び」を前半・後半に分けて実施。参加者は障がいを持っている方も対象とし、会場では車椅子での参加も想定した配置とした。実際に2組の親子が車椅子で参加してくれた。そのほかにも脳性麻痺、側湾症、発達障害のお子様などもあり、それぞれが自分のスタイルで参加することが出来ていた印象です。また同時にミニ写真展も展示しました。

「手話ダンス」ではYOASOBIの「ツバメ」を手話を取り入れた簡単なダンスにアレンジし、子どもから大人までみんなで楽しみながら、かつ手話表現も学べる内容にした。事前にすでにYoutubeに動画を上げてあり、フライヤーにQRコードを添付したこともあり、事前に練習して参加されている方もおり、それぞれの手話の手の動きにはこのような意味があると実際に目の前でやることで習得しやすい環境を作ったり、麻痺の方は足のステップを無しにして手だけに集中できるように、登壇者は立位と座位に分かれて実施した。

「感覚遊び」では、前半にプチ講座として力加減の感覚「固有感覚」について子どもたちにもわかりやすいようにまとめたプレゼンを実験をしながら行った。これには普段、子どもの発達についてお母さんに一任することが多く、あまり触れることがないお父さんにぜひ、知ってもらいたいという思いから行っています。子どもたちも飽きることなく最後まで集中して聞くことが出来、終了後は保護者よりとても勉強になりましたという声も聞かれた

また後半のゲームでは、あらかじめお父さんがくると予測していた為、お父さんがみんなの前で活躍できるようなゲーム“人間椅子”や綱引きを行い、子どもたちをはじめ、母親、他の参加者から笑いと共に一緒に応援しながら一体になり拍手が沸き起こる場面が沢山あった。また、父親のかっこよさ、一緒に参加する楽しさを提供できる良い機会ともなった。



基調講演 助産院エ・ク・ボ 高室典子院長

【日時】11月26日(土) 16:15~17:00

【場所】札幌エルプラザ 大研修室

【主催団体名】ファザーリング・ジャパン

【登壇者】ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員会、北海道

【実施内容】

目的：男性育休について、当事者である父親の理解を深める。

男性が育児休暇を取ることが目的にならないために、母親をサポートしながら、育児の当事者としてスムーズに育児に入れるようにするためには、育児が始まる前からの夫婦のコミュニケーションをとっていることが大切。また、産後も慣れない赤ちゃんのお世話で時間はなくなるが、常に夫婦で話し合い、ミスコミュニケーションを多発させない工夫が必要。産後の母体は大変弱っており、精神状態も不安定になっているということを前提として接していくということが大切など、多くの母親と新生児をサポートする助産師という立場から具体例を交え分かりやすくお話いただいた。



閉会式

【日時】11月25日(土) 17:00~17:15

【場所】札幌エルプラザ 大研修室

【主催団体名】ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員会

【登壇者】

安藤 哲也 (ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員長)

【実施内容】

各分科会主催者からの実施報告と、安藤実行委員長と伊藤ファザーリング北海道代表による総括で2日間を振り返った。

